

患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を行っております。対象となる患者さんのデータを用いて行いますが、個人のお名前や個人を特定できる情報が公表されることは一切ありません。

ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

研究課題名	集学的口腔ケアの口腔問題に対する影響の検討
研究責任者 (共同研究者)	小山内奈津美 森永伊昭 工藤佳奈 原田千明
研究目的と意義	当院は、歯科標榜を持たない病院ですが、2006年にリハビリテーション科に歯科衛生士を配置しました。歯科衛生士配置後、集学的口腔ケアの取り組み（以下1-3）を行い、入院患者の口腔問題の改善に積極的に取り組んでおります。 本研究は、集学的口腔ケアの口腔問題に対する影響を、入院患者の横断的口腔アセスメント結果より分析し、集学的口腔ケアの有用性について検討・調査します。 〈集学的口腔ケアの取り組み〉 1. 口腔ケアの基準化：口腔状態に合ったケアが提供できるよう、院内の口腔ケア用品や口腔ケア方法を統一しました。 2. 口腔ケアの集学化：歯科衛生士・言語聴覚士・看護師が連携し、患者の口腔状態に合った口腔ケアの提供や歯科治療が必要な方への歯科往診介入を積極的に実施しています。 3. 職員の口腔ケア技術の向上：職員の口腔ケア技術の一定水準化を目的に口腔ケアの客観的臨床能力試験（OSCE）を実施しました。OSCEの内容は資料をご参照下さい。
調査対象となる方 (該当期間)	1：2008年7月7日～7月16日 2：2010年2月1日～2月8日 3：2012年2月7日～2月10日 4：2016年12月12日～12月20日 5：2019年3月4日～3月8日 の1～5の横断的口腔アセスメント調査実施期間に入院していた産婦人科・小児科病棟を除く患者。
研究方法 (使用する情報)	電子カルテに記載のある診療記録と検査データを利用します。 (性別、年齢、口腔ケアADL、義歯の有無、残存歯の有無、口腔状態の問題の有無)
研究期間	倫理委員会承認日より1年間
個人情報の取り扱い	個人情報は厳正に管理し、利用する情報から氏名や住所などの患者さんを直接特定できる情報（イニシャル、生年月日、当院IDなど）は削除します。また、研究成果は論文等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	この研究に関して新たに患者様にさせていただくことや負担は特にありません。本研究への参加を辞退される場合は、いつでもご遠慮なく研究責任者までご連絡ください。参加を辞退されても患者さんが診療の上で不利な扱いをうけることはありません。 お問い合わせ先：津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科 研究責任者：小山内奈津美 電話番号：0172-55-7717
備考	

口腔ケアの客観的臨床能力試験の実施について

当院では、口腔ケアに関わる職員の「口腔ケアの手技の確認と手技の統一」を目的とし、口腔ケアの客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination、以下 OSCE）を継続的に実施しております。実施内容につきましては以下をご参照ください。

【対象】

口腔ケアに関わる全職種（看護師・ケアワーカー・言語聴覚士・作業療法士）

【実施期間と実施人数】

<実施第1回>

実施期間：2011年11月4日～12月16日

<実施第2回>

実施期間：2014年11月10日～11月21日

実施人数：看護師・ケアワーカー・言語聴覚士・作業療法士の221名

【OSCEの実施内容】

1) OSCE にむけての事前学習会の実施

対象者全員に OSCE の内容を含む口腔ケア学習会を開催した。

2) 実施内容

①口頭質問

・口腔内評価部位の確認 ・口腔ケア用品と義歯の管理方法 ・口腔ケアの頻度

②画像評価

・画像による口腔内の評価と口腔状態に合った口腔ケア用品の選択

③実技

・模型を使用してのブラッシングと口腔内清拭 ・義歯洗浄 ・指ガードの使用方法

3) 評価方法

評価者：口腔ケア嚥下チーム委員の歯科衛生士・看護師・言語聴覚士

実施方法：対象者1名に対して2名の評価者にて実施。評価は評価表を用いて実施した。

評価項目は35項目で1項目1点とし35点を満点とした。

4) 結果のフィードバック

OSCE 実施後、OSCE の結果と正しい手技についてのフィードバックを行った。

以上